

VMware Cloud Director 10.1.1 リリース ノート

VMware Cloud Director 10.1.1 | 2020 年 5 月 28 日 | ビルド 16288798 (インストールされているビルド 16282995)

このリリースノートの追加事項や更新事項を確認してください。

このドキュメントの内容

- [新機能](#)
- [システム要件とインストール](#)
- [ドキュメント](#)
- [VMware Cloud Director 10.1.x の以前のリリース](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

新機能

VMware Cloud Director 10.1.1 リリースでは、VMware NSX-T Data Center 3.0、vSAN 7.0、VMware vSphere 7.0 のサポートが導入されています。本リリースでは、バグ修正を提供し、VMware Cloud Director アプライアンスの基本 OS および VMware Cloud Director のオープンソース コンポーネントをアップデートします。

システム要件とインストール

システム要件とインストール手順の詳細については、「[VMware Cloud Director 10.1 リリース ノート](#)」を参照してください。

更新

サポート対象の VMware Cloud Director サーバ オペレーティング システム

- CentOS 8.0
- CentOS 8.1
- Red Hat Enterprise Linux 8.0
- Red Hat Enterprise Linux 8.1

ドキュメント

製品の完全なドキュメント セットを参照するには、「[VMware Cloud Director のドキュメント](#)」にアクセスしてください。

VMware Cloud Director 10.1.x の以前のリリース

[VMware Cloud Director 10.1 リリース ノート](#)

解決した問題

- **経路指定された組織 VDC ネットワークの作成に失敗する**

経路指定された組織 VDC ネットワークを作成しようとする、次のエラー メッセージが表示され、操作が失敗します。

入力した要求は無効です。

- **仮想マシンのストレージ ポリシーを更新できない**

vCenter High Availability クラスターの構成で、特定のホストがフェイルオーバー ホストとして指定されている場合、仮想マシン ストレージ プロファイルを更新すると

「DisallowedOperationOnFailoverHost」というエラー メッセージが表示され、失敗します。

- **リソース プール間での仮想マシンの移行が失敗する**

複数のハード ディスクで構成されている仮想マシンで、仮想ディスクに別のストレージ ポリシーを割り当てると、仮想マシンをリソース プールから他のリソース プールに移行した際に以下のエラー メッセージが表示され、失敗します。

適切なリソースが見つからなかったため、操作は失敗しました。ハブに適切なデータストアが見つかりませんでした。

- **OVF テンプレートを使用して新しい vApp を作成すると失敗する**

ESXi 6.7 Update 3 を実行している仮想マシンからエクスポートされた OVF テンプレートを使用して新しい vApp を作成すると、「コンテンツは Prolog で許可されていません」というエラー メッセージが表示され、操作が失敗します。

- **Flex 割り当てモデルで構成された組織仮想データセンター (VDC) 内の仮想マシンのパワーオンに失敗する**

Flex 組織 VDC で、仮想マシン メモリのオーバーヘッドがある状態で、現在組織 VDC で実行されている仮想マシンに対して確保するメモリ リソースを 100% に設定すると、仮想マシンのパワーオンに失敗し、以下のエラーメッセージが表示されます。

親リソース プールで使用可能なメモリ リソースが、この操作に対して不足しています。

- **仮想マシンに新しいハード ディスクを追加すると、既存の仮想ディスクが削除される**

仮想マシンに新しいハード ディスクを追加するとき、既存の仮想ディスクがウィザードによって表示される前に **[保存]** をクリックすると、構成済みのすべての仮想ディスクが削除されます。

- **[新規 Edge Gateway] ウィザードに、この Edge クラスタにアクセスできる外部ネットワークのリストが表示されない**

組織仮想データセンターで仮想データセンター ネットワーク プロファイルを使用してプライマリおよびセカンダリ Edge Gateway クラスタを構成する場合、Edge Gateway クラスタに新しい NSX Data Center for vSphere Edge Gateway を追加しようとする、**[新規 Edge Gateway]** ウィザードに、この Edge クラスタにアクセスできる外部ネットワークのリストが表示されません。

既知の問題

- **New:** Microsoft Internet Explorer 11 を使用していると仮想マシンの Web コンソールを開くことができない

Microsoft Internet Explorer 11 を使用して仮想マシンのコンソールに接続すると空白のウィンドウが開き、仮想マシン コンソールにアクセスできません。

回避策：なし。

- **New:** 予約プール仮想データセンターを Flex 組織仮想データセンターに変換すると、仮想マシンが非準拠になる

予約プール割り当てモデルを使用する組織仮想データセンターで、一部の仮想マシンに CPU とメモリのゼロ以外の予約、CPU とメモリの無制限でない構成、またはその両方がある場合、Flex 組織仮想データセンターに変換した後でこれらの仮想マシンは非準拠になります。仮想マシンを再び準拠状態にしようと試みると、システムは予約と制限に関して誤ったポリシーを適用して、CPU およびメモリの予約をゼロに設定し、制限を **[制限なし]** に設定します。

回避策：

1. システム管理者が、正しい構成の仮想マシン サイジング ポリシーを作成する必要があります。
2. システム管理者が、変換後の Flex 組織仮想データセンターに新しい仮想マシン サイジング ポリシーを発行する必要があります。
3. テナントは、VMware Cloud Director API または VMware Cloud Director テナント ポータルを使用して、Flex 組織 VDC 内の既存の仮想マシンに仮想マシン サイジング ポリシーを割り当てることができます。

- **初回ログイン時に root パスワードを期限切れにする設定を有効にすると、VMware Cloud Director アプライアンスのデプロイに失敗する**

[初回ログイン時に root パスワードを期限切れにする] 設定が有効なアプライアンスをデプロイすると、デプロイは失敗し、/opt/vmware/var/log/firstboot ログ ファイルに次のエラーが記録されます。

[ERROR] postgresauth script failed to execute.

回避策: **[初回ログイン時に root パスワードを期限切れにする]** 設定を無効にし、8 文字以上で、1 つ以上の大文字、1 つ以上の小文字、1 つ以上の数字、1 つ以上の特殊文字を含む初期 root パスワードを指定します。

- **vApp ユーザーがテンプレートから vApp を作成する際に、「操作は拒否されました」というメッセージが表示されることがある**

割り当てられているユーザー ロールが vApp ユーザーである場合、テンプレートから vApp を作成する際に、vApp 内の仮想マシンの仮想マシンサイジングポリシーをカスタマイズすると、「操作は拒否されました」というメッセージが表示されます。この問題は、vApp ユーザーロールでは vApp をテンプレートからインスタンス化できますが、このロールには仮想マシンのメモリ、CPU、またはハードディスクをカスタマイズできる権限が含まれていないために発生します。サイジングポリシーを変更することで、仮想マシンのメモリまたは CPU を変更できます。

回避策: なし。

- **NFS のダウンタイムによって VMware Cloud Director アプライアンスのクラスタ機能が誤動作することがある**

NFS 共有に空きがない、または読み取り専用になっているなどの理由で NFS が使用できない場合、アプライアンスのクラスタ機能が誤動作する可能性があります。NFS が停止している、またはアクセスできない場合、HTML5 ユーザー インターフェイスは応答しません。影響を受ける可能性のあるその他の機能として、障害が発生したプライマリセルのフェンス、スイッチオーバー、スタンバイセルの昇格などがあります。NFS 共有ストレージを正しく設定する方法については、「[VMware Cloud Director アプライアンスに対する転送サーバストレージの準備](#)」を参照してください。

回避策:

- NFS の状態を read-only にならないように修正します。
- NFS 共有に空きがない場合は、クリーンアップします。

- **マルチサイト環境で vCenter Server および NSX のリソースを追加しているときにエンドポイントを信頼した場合、統合証明書ストレージ領域にエンドポイントが追加されない**

マルチサイト環境で HTML5 ユーザー インターフェイスを使用しているときに、vCloud Director 10.0 サイトにログインするか、vCenter Server インスタンスを vCloud Director 10.0 サイトに登録しようとしても、VMware Cloud Director がエンドポイントを統合証明書ストレージ領域に追加しません。

回避策:

- 証明書を VMware Cloud Director 10.1 サイトにインポートするには、API を使用します。
- 証明書管理機能をトリガするには、VMware Cloud Director 10.1 サイトの SP Admin Portal に移動し、サービスの **[編集]** ダイアログに移動して、**[保存]** をクリックします。

- **vCenter Server バージョン 6.5 以前で名前付きディスクを暗号化すると、エラーが発生して失敗する**

vCenter Server インスタンス バージョン 6.5 以前の場合、新規または既存の名前付きディスクを暗号化が有効になっているポリシーに関連付けると、操作が失敗し、「このバージョンの vCenter Server では、名前付きディスクの暗号化はサポートされていません。」というエラーが表示されます。

回避策: なし。

- **VMware Cloud Director バージョン 10.0 と 10.1 のマルチサイト混在環境で vCenter Server および NSX の接続に対する証明書の信頼が、ローカル サイトのオブジェクトに対してのみ機能する**
VMware Cloud Director バージョン 10.0 と 10.1 を含むマルチサイト環境が互いに関連付けられている場合、いずれかのサイトにログインすると、他方のサイトで vCenter Server または NSX Manager インスタンスを登録できません。

回避策: vCenter Server または NSX Manager インスタンスを登録するサイトにログインし、登録プロセスを開始します。

- **VMware Cloud Director テナント ポータルで、[アプリケーション] タブの仮想マシンの詳細なフィルタリング オプションからデータセンター別に仮想マシンをフィルタリングできない**
VMware Cloud Director テナント ポータルで、上部のナビゲーション バーの [アプリケーション] タブの下にある仮想マシンに移動し、[詳細フィルタ] オプションからデータセンター別に仮想マシンをフィルタリングすると、以下のようなエラーが表示されます: 不正な要求: 不明なプロパティ名 vdcName です。

回避策: 上部のナビゲーションバーで、**[データセンター]** を選択し、内部の仮想マシンを表示するデータセンターを選択します。

- **NEW: 拡張機能サービスで VMware Cloud Director からの RabbitMQ メッセージが処理されない**

RabbitMQ に依存する拡張機能サービスでは、ヘッダーに新しい一時的な名前があるため、メッセージからヘッダー notification.type を取得できません。VMware Cloud Director 10.1.0 のヘッ

ダー名は `notification.operationType` です。

回避策: 拡張機能サービスで VMware Cloud Director からの RabbitMQ メッセージを処理しており、`notification.type` ヘッダーを使用している場合は、変更する必要があります。

`notification.type` ヘッダーを使用できない場合、拡張機能サービスはヘッダー

`notification.operationType` から値を取得する必要があります。この変更は、バージョン 10.1.0 の場合にのみ必要です。

- **VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal で、組織仮想データセンターの削除がエラーで失敗する**

VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal で、組織 VDC に Edge ゲートウェイを追加し、ゲートウェイでの VMware Cloud Director 分散ルーティングを有効にしている場合、組織 VDC の削除を試行すると、「組織 VDC ネットワークを削除できません」というエラーメッセージが表示されて失敗します。

回避策:

1. API を使用して、組織 VDC に関連付けられている組織 VDC ネットワークと Edge ゲートウェイを削除します。
2. API を使用して、組織 VDC を削除します。

- **レガシー API ログイン エンドポイントへのプロバイダ アクセスを無効にすると、vCloud Usage Meter や vCloud Availability for VMware Cloud Director など、システム管理者のログインを利用するすべての API 統合が機能を停止する**

vCloud Director 10.0 以降では、サービス プロバイダおよびテナントから VMware Cloud Director へのアクセスに個別の VMware Cloud Director OpenAPI ログイン エンドポイントを使用できます。サービス プロバイダからレガシー `/api/sessions` エンドポイントへのアクセスが無効になっている場合は、vCloud Usage Meter や vCloud Availability for VMware Cloud Director など、VMware Cloud Director と統合された製品が機能を停止します。これらの製品を引き続き動作させるには、パッチを適用する必要があります。

この問題は、システム管理者にのみ影響します。テナント ログインは影響を受けません。

回避策: セル管理ツールを使用して、サービス プロバイダからレガシー `/api/sessions` エンドポイントへのアクセスを再度有効にします。

- **VDC の予約保証値を変更すると、再起動しても、既存の仮想マシンが適切に更新されない**

システムのデフォルト ポリシーが設定された Flex 組織 VDC があり、この VDC 上のパワーオン状態の仮想マシンにデフォルトのサイジング ポリシーが設定されている場合に、VDC のリソース保証値を大きくすると、既存の仮想マシンのリソース予約は更新されず、非準拠とマークされることもありません。この問題は、レガシー VDC 割り当てモデルを Flex 割り当てモデルに

変換したことで既存の仮想マシンが Flex 組織 VDC の新しいデフォルト ポリシーに準拠しなくなった場合にも発生します。

回避策:

1. 仮想マシン識別子を見つけるには、VMware Cloud Director テナント ポータルで仮想マシンの [詳細] 画面に移動します。URL に識別子が表示されます。

`https://Cloud_Director_IP_address_or_host_name/tenant/.../vm-Identifier/general`

2. VMware Cloud Director ユーザー インターフェイスに非準拠の仮想マシンを表示するには、VMware Cloud Director API を使用して、仮想マシンに対する明示的なコンプライアンス チェックを実行します。

POST: `https://VCD_IP_Address/api/vApp/vm-Identifier/action/checkComputePolicyCompliance`

3. ポリシーを再適用してリソース予約を再構成するには、VMware Cloud Director テナント ポータルで、非準拠仮想マシンに対して **[仮想マシンを準拠させる]** をクリックします。

- **VMware Cloud Director に、専用 vCenter Server インスタンス内の実行中の仮想マシン数と仮想マシンの総数、および CPU とメモリの統計情報が正しく表示されない**

専用 vCenter Server がバージョン 6.0 U3i 以前、6.5U2 以前、または 6.7U1 以前の場合は、VMware Cloud Director に、vCenter Server インスタンス内の実行中の仮想マシン数、仮想マシンの総数、および CPU とメモリの統計情報に関する情報が正しく表示されません。vSphere 環境に仮想マシンが置かれている場合でも、テナント ポータルの専用 vCenter Server のタイルと、サービス プロバイダ管理ポータルの専用 vCenter Server の情報に、実行中の仮想マシンと仮想マシンの総数が両方ともゼロと表示されます。

回避策: vCenter Server インスタンスをバージョン 6.0 U3j、6.5U3、6.7U2 以降にアップグレードします。

- **パワーオン状態にある仮想マシンのコンピューティング ポリシーを変更すると失敗することがある**

パワーオン状態にある仮想マシンのコンピューティング ポリシーを変更する際に、仮想マシングループまたは論理仮想マシン グループが含まれるプロバイダ VDC コンピューティング ポリシーに新しいコンピューティング ポリシーが関連付けられていると、エラーが発生します。次のエラー メッセージが表示されます。基盤システムのエラー:

`com.vmware.vim.binding.vim.fault.VmHostAffinityRuleViolation。`

回避策: 仮想マシンをパワーオフしてから、操作をやり直してください。

- **Firefox で VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal を使用している場合に、テナント ネットワーク画面をロードできない**

Firefox で VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal を使用すると、組織仮想データセンターの **[ファイアウォールの管理]** 画面などのテナント ネットワーク画面の読み込みに失敗す

ることがあります。この問題は、Firefox ブラウザでサードパーティの Cookie をブロックするように設定していると発生します。

回避策: Firefox ブラウザで、サードパーティの Cookie を許可するように設定します。

- **VMware Cloud Director 10.1 では、vRealize Orchestrator ワークフローの入力パラメータのリストのみがサポートされる**

VMware Cloud Director 10.1 では、以下の vRealize Orchestrator ワークフローの入力パラメータがサポートされます。

- boolean
- sdkObject
- secureString
- number
- mimeAttachment
- properties
- date
- composite
- regex
- encryptedString
- array

回避策: なし

- **VMware vSphere Storage APIs Array Integration (VAAI) 対応 NFS アレイ上、または vSphere Virtual Volumes (VVols) 上に作成されている高速プロビジョニングされた仮想マシンを統合できない**

ネイティブ スナップショットが使用されている場合、高速プロビジョニングされた仮想マシンのインプレイス統合はサポートされません。VAAI 対応データストアおよび VVols では、ネイティブ スナップショットが常に使用されます。高速プロビジョニングされた仮想マシンがこれらのいずれかのストレージ コンテナにデプロイされている場合、その仮想マシンを統合することはできません。

回避策: "VAAI 対応 NFS または VVols を使用する組織仮想データセンターで高速プロビジョニングを有効にしてはいけません。"VAAI または VVol のデータストアにスナップショットを持つ仮想マシンを統合するには、その仮想マシンを別のストレージ コンテナに再配置します。

- **仮想マシンに IPv6 NIC を追加し、同じ仮想マシンに IPv4 NIC を追加すると、IPv4 の North-South トラフィックが切断される**

HTML5 ユーザー インターフェイスを使用して、最初に IPv6 NIC を追加するか、IPv6 NIC を仮想マシンのプライマリ NIC として構成した後、同じ仮想マシンに IPv4 NIC を追加すると、IPv4 の North-South 通信が切断されます。

回避策: 最初に IPv4 NIC を仮想マシンに追加してから、IPv6 NIC を追加する必要があります。

- **VMware Cloud Director API を使用して、テンプレートから仮想マシンを作成するときに、デフォルトのストレージ ポリシーを指定しなかった場合、テンプレートに対してストレージ ポリシーが設定されていなければ、新しく作成された仮想マシンは、ソース テンプレート自体のストレージ ポリシーを使用する**

VMware Cloud Director API を使用して、テンプレートから仮想マシンを作成するときに、デフォルトのストレージ ポリシーを指定しなかった場合、テンプレートに対してストレージ ポリシーが設定されていなければ、新しく作成された仮想マシンは、デプロイ先の組織仮想データセンターのストレージ ポリシーは使用せずに、ソース テンプレート自体のストレージ ポリシーを使用します。

回避策：なし。